

歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」 例年通り北九州、山口、福岡の3会場で開催 来年3月6日には北九州で年度末展も

(財)毎日新聞西部社会事業団が主催する歳末恒例チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は、今年も例年通り、北九州、山口、福岡の3会場で、下記の日程で開催します。

チャリティー即売展は、全国各地で活躍されている画家や陶・工芸家、書家をはじめ名刹・古刹の高僧、イラストレーター、漫画家、文筆家、芸能人ら各界の著名な方々から寄贈された作品を、寄贈者の特別の計らいで市価よりも大幅に安いチャリティー価格で販売します。中には人間国宝や日本芸術院会員といったわが国を代表する芸術家や人気作家の先生方から、超一級の作品が数多く寄贈・出品されます。

入札は各会場とも昨年と同様、2日目午前11時半に締め切り、直ちに開票集計し、落札者にはその場で作品をお渡しします。なお主な出品作品は、当事業団ホームページ(http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/)で11月下旬から紹介する予定です。

【北九州会場】

日時 12月5日(土) 9時半～17時、6日(日)10時～16時
場所 北九州市小倉北区紺屋町13-1
毎日西部会館5階大ホール及び中ホール

【山口会場】

日時 12月12日(土) 9時半～17時、13日(日)10時～16時
場所 山口市市中町3-3
山口井筒屋2階特設会場

【福岡会場】

日時 12月19日(土) 9時半～17時、20日(日)10時～16時
場所 福岡市中央区天神1-1-1
アクロス福岡2階交流ギャラリー

【年度末展会場】

日時 10年3月6日(土) 9時半～15時
場所 北九州市小倉北区紺屋町13-1
毎日西部会館5階大ホール

☆歳末展に展示される入札作品の一部☆(敬称略)



有馬和彦「ゴッホのカフェ」SM



渡辺章雄「花降る里」SM



中村翠嵐「古代黄交趾 初夢茶碗」

そよかせ 毎日新聞西部社会事業団だより

第75号 2009年10月19日

発行所 〒802-8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(財)毎日新聞西部社会事業団
発行人 木村 雄峰
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail: s-maisw@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替 01770-2-40213
URL http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

第39回 毎日社会福祉顕彰贈呈式



社会福祉の向上に尽くし、介輔制度による医介輔として、昨年度まで約60年にわたって地域医療を支えてきた同県市町村の宮里善昌さん(88)▽団体は、障害者らが伝統芸能「石見神楽」の衣装・面などを製作し、産業としてみ成功している島根県浜田市社会福祉法人いいわみ福祉会(室崎富恵会長)と人形劇を中心に全国各地で約3600公演を実施し、70万人を超える子どもたちに感動を与えてきた大阪府泉大津市のNPO法人おはなしキヤラバン「つばき」(立花由美子代表)が、それぞれ受賞。毎日新聞社社長の朝比奈豊毎日新聞社会事業団理事長から賞状(しんようはい)と賞金100万円が贈られた。

受賞した宮里さんはあいさつで「内科、外科、小児科の各科を診察しなければならぬので苦勞したが、半面いい勉強になりました。戦争で一人生き残った使命感があり、大勢の人の支援があつてやっつけました」と喜びを語り、最後の医介輔として歩んだ60年の歳月を振り返っていた。

社会福祉の向上に尽くし、介輔制度による医介輔として、昨年度まで約60年にわたって地域医療を支えてきた同県市町村の宮里善昌さん(88)▽団体は、障害者らが伝統芸能「石見神楽」の衣装・面などを製作し、産業としてみ成功している島根県浜田市社会福祉法人いいわみ福祉会(室崎富恵会長)と人形劇を中心に全国各地で約3600公演を実施し、70万人を超える子どもたちに感動を与えてきた大阪府泉大津市のNPO法人おはなしキヤラバン「つばき」(立花由美子代表)が、それぞれ受賞。毎日新聞社社長の朝比奈豊毎日新聞社会事業団理事長から賞状(しんようはい)と賞金100万円が贈られた。

第39回 毎日社会福祉顕彰の贈呈式 沖縄の宮里さんら3氏が受賞

■タイの女子学生6人が熊本で研修

「日・タイ両国の社会福祉に関する交流事業」で来日したタイ国立タマサート大学の学生と院生6人が3月、熊本県内の施設で3週間にわたって研修を受けた＝写真。事業は将来、タイ国の社会福祉分野でリーダーとなる人材育成の支援・促進を目的に実施されており、今年で2回目。当社会事業団は08年の第1回から事業を助成している。

招かれた6人は、熊本市内や近郊にある児童養護施設、特別養護老人ホーム、保育園、障害者らが働くパン工房などで研修。泊り込みで職員や入所者らと寝食を共にしながら日本の福祉の現状を学ぶ一方、お年寄りにタイの伝統舞踊を披露するなど、交流を深めた。

無事に研修を終え、3月末にあった閉講式で、4年生のジャントラ・シンハダさん(23)は「学んだことを生かし、タイの社会福祉発展のために努力したい」と決意を語っていた。



毎日新聞社が14年前から取り組んでいる「小児がん征圧キャンペーン」の一環として9月9日、福岡市中央区天神のアクロス福岡でチャリティー公演「生きろ、こえん、なごん、さあ」とが開かれた。約1000人の観客が女優、竹下景子さんの司会・朗読や世界的なソプラノ歌手、中丸三千繪さんの澄んだ歌声などに聴き入った。会場入り口には、西部社会事業団が小児がんの子どものための募金箱を設置。訪れた人たちに募金を呼びかけ、計17万3842円が寄せられた。

公演では、竹下景子さんが命の大切さを描いた絵本「葉っぱのフレディ」を、丸三千繪さんがブッチーの「歌に生き愛に生き」など7曲を熱唱し、観客から大きな拍手を送られた。

会場には、病気を乗り越えた子どもたち約120人が招かれ、竹下さんや中丸さん、地元のムーゼンクランツ福岡少年少女合唱団の団員らから励まし、感謝の言葉を述べられ、一部が西部社会事業団の小児がん征圧募金に贈られ、寄せられた募金とともに小児がんの患者・家族らを支援している団体に助成する。

